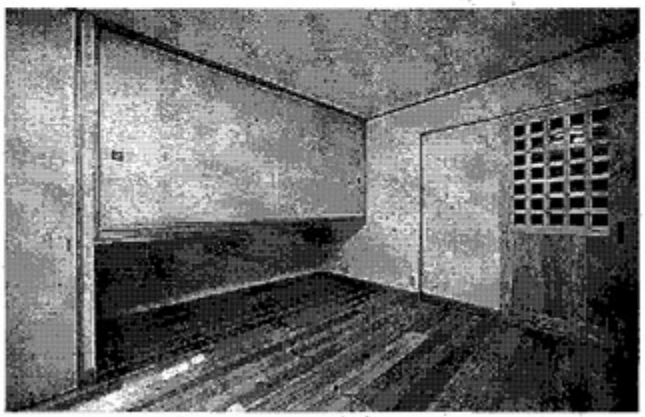
国産材やムク材を積極活用

大工の技術と女性の気配りが強み

エコリフォーム

エコリフォーム（東京都、塩谷理枝社長）は、東京23区内を対象とした女性だけのリフォーム会社。ムクの床材や建具、集成材のカウンターなど、木材をふんだんに使ったリフォーム工事を行うため、扱いが特徴だ。同社のホームページで紹介される物件も、ムクの床材などが目立ち、同様の施工を求める施主が多いという。ムク材へのこだわりが、他社との差別化につながっているようだ。

グループ会社の工務店の大工がリフォーム工事を行うため、扱いの難しいムク材も正しく施工される。さらに、床材に隙間ができたり傷が付きやすいといった、ムクならではの特徴をしっかり説明することが、後のクレームにつながらないための重要なポイントとする。「風合いや調湿機能が良い」「生活するうえで傷は気にならない」など、ムク材を選んだ施主の感想を基に説明すると、ムクを理解したうえで、採用する施主が多いという。



床も建具もムク材。押し入れ内部は天竜杉の板が張られた

ムクフローリングと複合フロアは、製品単価に大差はないが、マンションでは乾式遮音2重床など防音対策工事が付帯するため、ムクのほうがトータルコストが高くなっている。これがムク採用のひとつの足かせだが、ムクにしたら防音が悪くなったという評価を出さないためにも、床材がムクの場合は特に防音に気を配っている。

同社は、紀州や天龍等の有名産地から直接購入するなどして、国産材を積極的に提案している。ただ、価格面で施主の希望と合わないこともあり、今は輸入のパイン材の割合が多い。これと合わせやすいウッドワンのムク建具も、「ムクながら精度が高く、自然塗料で健康面にも安心で、高付加価値のわりに提案しやすい価格帯」（塩谷社長）と評価する。

特にマンションは建具の占める割合が多く「ここで国産の杉や桧の建具をもっと採用していきたい」（同）。イマガワの建具などを精度もデザインも優れていると高評価する。ただ「今の価格では施主への提案が難しい。製品の品質や、山の手入れまで考えれば今でもぎりぎりの価格設定だとは思うが、もう少し手ごろな価格になればもっと使える」（同）。